



第 16 号  
 月 1 回 発行  
 ひの心を継ぐ会  
 〒799-1336  
 住所:愛媛県西条市  
 上市甲 720-1

綱 領

- 一 私達は明德を明らかにします
- 一 私達は国家の鎮護となります
- 一 私達は大和世界を建設します

お断り

先日の定期総会で決定しました通り、パソコンのトラブルが多発したことから、不本意ではありますが、今月より正漢字・正仮名遣いでの月報を取りやめ、現代漢字・現代仮名遣いでの発行を行いたいと思います。今後むしろの精神はそのままに、毎月月報を発行して参りたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

神道(五)(大和世界の建設)

古事記

北と一

美斗能麻具波比

—河図・洛書—

洛書

「洛書は辺都鏡より現ず。天に位して地を照らすといへり。其数載九履レ一左レ三右レ七二四為レ肩八為レ足と云り。夏の禹王に洪節九疇を授く。(慈雲尊者の神儒偶談より)」

河図の円に対して、四隅あれば方といい、動的、空間的、肉体的、男の体

竹葉 秀雄

心とする。河図の五常(仁・義・礼・智・信)に対して、五倫(君臣・父子・夫婦・長幼・朋友)の道ともする。縦横斜いづれも合計十五となり、五を距てて相対する数の計はすべてとなる。

北の冬至一より陽は左旋し、陽数三を乗じて、東に三、その三を三乗して、南に九、その九を三乗して、西に二十七の基本数の七、その七を三乗して、二十一の一と復元して尽くることがない。南の夏至の次の南西に一陰生じ、陰の始めの数は二、その二より陰は右旋し、陰数二を乗じて、東西に四、その四を二乗して、北東に八、その八を二乗して、西北に十六の基本数の六、その六を二乗して十二の二、南西に復元して尽くることがない。五は天の御柱、(天之御中主神・天照大御神・立極垂統日継之道の数位、後述す。)これを見立て、陰陽二神右旋左旋して「美斗能麻具波比」して息むことなく、陽の原子核を陰電子は右旋して美斗能麻具波比相結びて八十数箇の元素を生じ、万物を発生してやまず、太陽、地球またこの法則に運行して天地位す。畏き哉!稜威!

中心の天之御柱建ちて、左右生じ、前後生ず、四方定まって四隅生じ、八位備って天地の象形成る。陽は九に終り、陰は八に終る。左旋右旋してやまず、美斗能麻具波比、結び、産霊の道絶ゆることなし。

## 第二章 農の史的考察

菅原 兵治

## 第一節 文質交替史観

前節に於ては農の本質を主として哲学的道義的に考察したのであるが、更に本章に於て史学的に之を慎思して其の史学的使命を明かならしめることとする。

## 歴史観

一体事実の推移過程を、単に時間的経過の順序に従って記録した処で、それは厳密なる意味に於て未だ「史」とは謂い得ないであろう。史とは已に其の文学的意義の示す通り「史」であつて、「中」と「又」との会意文字である。「又」の字は「手」の字であるから「史」は中を取るの意になる。従つて「史」とは其の人が中正なりと信ずる歴史の原則（即ち歴史観）に従つて事実の批取判捨を決定述作する処に始めて生じ来るものである。近來社会的変遷を説明するに當つて、従来彼のマルクス一派の唯物史観が随分重宝がられたようであるが、あれも確かに一つの歴史観ではある。但しそれは前述の文質関係より謂えば、偏文的史観に過ぎない。何となれば、人生に於ける物の生活、経済的生活は、心の生活、道義の生活に比すれば人生に於ける外的発現の一面を抽出した偏文的事象に過ぎないものであるからである。何事も造化の根本に復つて深く其の全体を識得せんとする私共は、人間生活の歴史に於ても亦造化の法則たる陰陽文質の原理によつて、之を觀んと欲するものである。換言すれば文質交替史観の上に立つて社会編纂の課程を見ることに、一層の真理観を有つものである。

## 文質交替史観

然らば文質交替史観とは何ぞや、簡単に説明すればこうである。社会には文的態度の者と、質的態度の者が存在する。而して一時代の生活が或

る程度以上に分化発現するに至れば、造化の本質より遊離せる「浮文」の生活に墮する。社会の時勢が已に其処に至ると、遂に其の社会的均衡を破り、やがてその反動として「瀆武」的勢力の跋扈するを常とし、世は不安動揺を生じ来りて、所謂世紀末の世態を現出するに至る。此の対立的状态の暫く続いた後、新しき「質」の勢力によりて改新せられては世は再び新なる「質」に帰り、而して其の「質」より「文」に向つて新しき文化進展をなして行くものである。

(注)所謂「有産」「無産」の分類は、全く物質的標準に依るものであつて、この文質的考察は全人としての態度を以てなすものである。故に現在の所謂「無産者」必ずしも質的生活者と限らず、——否、其の名を欲し、利を争い、世間的なる声色を大にして得々たる浮文の輩すら少しとせぬ。同様に「有産者」の中にも、勿論文的態度の者もあれば、質的態度の者もある。然し此の事は深く道義の生活に入り、全人的修養を積んで来なければ中々觀得し難い處である、此処に又分析的なる西洋的教学に対して、全一的なる東洋的教学の必要を痛感するものである。分析的なる西洋的知識に浸潤してしまつた現代人には、すべてを唯物的対立的關係に於てのみものを見るようになって、全人的に人間を見分けるようなことは至難になり来たりつつある。

## 取材記 GLO西間木代表を訪う

三浦 夏南

令和元年七月二十二日、自治構想を具体的に推進している民間組織GLO・新日本総力機構の代表西間木俊光様を訪問し、親しくご指導頂く事が出来た。GLOの存在と活動は数年前より屢々耳にしていたが、今回會員の河本眞孝様の御紹介により、遂に直接お会いする運びとなった。ここに感謝の意を表したい。

GLOはGovernment Like Organizationの頭文字を取ったもので、政府の責任を持った民間組織を意味する。国民の思うようには進まない政府の政策を徒に批判するのではなく、民間有志の総力を結集し、在野より本質的な変革運動を確立せんとするのがその本旨である。我々ひの心を継ぐ会がGLOの活動に着目し、先駆者として学ばねばならないと感じた理由は、第一に貨幣万能のグローバル資本主義に対する根本的な批判を持っている点である。現在日本及び世界に起こっている諸問題の解決策は、社会構造そのものの転換を必要としていること、つまり裏面から言えば、現在の構造的問題を放置して対処療法的に事にあたって、原因は取り除かれず、問題は増加の一步を辿らざる得ないことである。この点が徹底しなれば、政策議論興って、国滅ぶということになりかねない。プレイヤーはルールメーカーには勝てないといわれるが、ルールそのもの是非に切り込まなければ、常に支配者の手の上で転がされるだけである。第二に、その根本的批判の上立って、総ての変革の基礎として「農本自治」に活動の総力が結集されていることである。今までの月報及び毎月の勉強会で繰り返し述べて来たように、我が国の諸問題の原因は、人間の最小単位である社稷が近代化により破壊されたことである。この社稷の自治が実質的に再現できない限り、あらゆる構想は空論と化してしまう。GLOは社稷自治の再生を「モデル都市」「学園都市」と称して既に実行し、基礎を固めつつある。第三に根底的な批判と総力の結集は、資金面、人脈面での集中的動員を可能とし、衣食住は勿論の事、エネルギー、教育、福祉等、人間

生活に必要なものの自給自足が具体的に完成しつつあることである。詳細は事の性質上ここに書くことは出来ないが、あまりに完備し、充実していることに驚きを隠せなかった。

我々が思い描きつつあるものを既に行動に移し、形にしていることに対して、驚きと喜びを感じるとともに、我々もすぐにも動き出し、基礎を固めなければ、「そのとき」は既に迫っているのだと再認識した。先輩の背中を拝して、やればできるとの勇氣が湧出するとともに、決して止まらず走り続けなければ、そこにたどり着くことはできないと感じた。

我々も来月の勉強会より、今までと形式が変わり、「自治」を如何に確立し、「三間村塾」の理想へと如何に近づくかの具体的議論へと歩を進める。ここで詳論できなかったことは勉強会にて報告したい。日々梅雨明けの猛暑の中で耕し、学問を進め、時折国内の先覚者を訪問する中で、臆気ながらも我が国を再興して行くビジョンが見えつつある。これを自らの足場に立って具体化して行くことが求められている。今回の西間木代表との出会いはまさに決意を固める一夜となった。

GLOの活動は先行事例として素晴らしく、我々の活動を進めて行く上で大いに参考となる活動であるが、ここに詳細を書くことが出来ないの、志ある方は是非次回からの新たな勉強会にご参加頂き、その壮大な活動内容を把握し、我々の計画と対照して頂きたい。ここに一言お願い申し上げます。本稿の筆を擱きたいと思う。

## とよくも農園だより

三浦 美恵

今月は遅れた梅雨の影響で、雨の間をぬって野菜セットの出荷、里芋の手入れ、ネギの収穫・出荷、畑の管理を行いました。

まず野菜セットについてです。毎週送ることになっていいるお客さんがいるので、雨でも収穫に行き、濡れた野菜の水気を一つひとつ拭き取りながら箱につめて行きます。無農薬の野菜が是非食べたいというお客さんに、清水せせらぐ山の中で育った野菜を送ることは、手間はかかりますが喜びを感じます。

続いて里芋の手入れです。肥料屋さんのアドバイスを受け、梅雨明けの猛暑に備えて排水の設備を整えたり、追肥をしたりしました。始めはなかなか芽が出ないと心配していましたが、今では葉は両手で大きな輪を作る程の大きさに、高さは自分たちの背丈程に育ち、畝間を通るのも一苦勞です。里芋は栽培期間が長く、三月に定植し、早くて九月から収穫の野菜です。手入れの期間が長く、気を揉むことも多いですが、その分、生長していく様子を見るのは楽しく、収穫時期が待ち遠しいです。

そして待ちに待ったネギの収穫・出荷ですが、想像以上に大変でした。ネギを引き抜くのは簡単ですが、不要な外の皮の部分を一枚一枚剥いて行かなければなりません。根を洗う作業や、病気になっている葉を除く時間を含めると、段ボール一箱を一つ詰めるのに、大人二人で一時間かかります。例年通りであ



れば、今の時期は一年の中でも高値がつき、一箱四〇〇〇円前後になるようですが、今年はどこも豊作で、現在一箱一二〇〇円での取引です。さらにそこから、苗代、段ボール代、肥料代、ガソリン代等ひくと、マイナスが出ないようにするので精一杯です。本来ならば、全国的に豊作になることは喜ばしいことのはずですが、豊作になると野菜が飽和し価格は暴落。資本主義の影響を真っ先に受けるのが農業になっている現状を目の当たりにしました。

最後は畑の管理です。一年半かけて借りたり買った畑は合わせる二町近くのにぼります。夏の生命の伸長は恐ろしく、連日の雨とその後、猛暑が二、三週間で雑草を腰まで生長させました。その土地を草刈り機で刈ってまわると全身汗だくになります。

梅雨明けしてからは、早朝に畑に出て日差しが強くなる頃に一度帰宅し、日中はゆっくりした後、早めの夕ご飯を食べて再び作業に出るようになっています。まだまだ暑さは続きますが、熱中症にならないよう、夫婦で協力しながら農作業に勤しみたいと思います。皆様もご自愛ください。





ご報告

先日の総会でお話ししました通り、来月より勉強会の形を変更します。これまでの古典の勉強会は月に二回から一回へと減らし、「三間村塾」再建を掲げて、農本自治の再生と農士を養成する塾の設立へと具体的に議論を進めて行く場を設けたいと思います。我々ひの心を継ぐ会の活動も具体的に体现する段階へと移行します。場所も、今までの「松山市男女共同参画推進センター」から、会員の寺川正一さんの旧宅に移ります。「定期総会」・「近藤美佐子先生を語る会」を機に新たなステージへと歩を進めて参りますので、志高き会員の皆様のご参加を切望致します。何卒宜しくお願い申し上げます。

★活動報告

- ・ 七月九日（火）勉強会『農士道』を開催。
- ・ 七月二十三日（火）勉強会『大学』を開催。

★今後の豫定

- ・ 八月七日（水）十九時～二十一時 三間村塾再建に向けて 寺川正一さん旧宅（愛媛県松山市高井町六一三一）
- ・ 八月二十一日（水）十九時～二十一時 『古事記』 寺川正一さん旧宅（愛媛県松山市高井町六一三一）

★一燈照偶 万燈照国

ひの心を継ぐ会は竹葉秀雄・近藤美佐子両先生の精神を継承し、発展させることを目的として生まれた会です。一人の「ひ」の精神が周囲の人々の心に「ひ」を燈し、やがてそれが国を照らす「ひ」になることを願い、活動を行っております。皆様には何卒ご理解とご支援を賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。

年会費

- ・ 一般会員 三千元
- ・ 賛助会員 一万円
- ・ 特別賛助会員 三万円
- ・ 支援会員 一万円

